

科目紹介

基礎科目

生命倫理学特論 (必修)



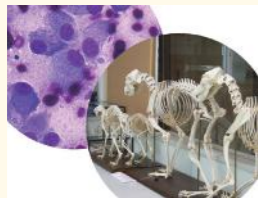
動物看護領域の主導的な職責遂行に必須の、生命倫理の理解と応用的実践力を学修する。伴侶動物を含む全動物種への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成する。

動物愛護・福祉特論 (必修)



動物愛護・福祉の基本概念に注目し、動物に対する人々の考え方は多様であることを理解させ、動物の生活の質をより良くするためには科学・倫理・法規の3分野の向上が必要であることを理解させる。

動物看護学 I (必修)



動物看護学を学問として発展させるために、基礎の3本柱となる解剖学・生理学・病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える。

動物看護学 II (選択)



愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となる、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について、研究データに基づいて具体的に詳しく教授する。

動物看護学演習 (選択)



動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。

動物人間関係学特論 (必修)



「動物と人間の関係性」のテーマを、アニマルセラピー、分子生物学、動物行動学、文化人類学、社会学、愛玩動物(犬、猫、鳥)の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて解説する。

動物人間関係学演習 (選択)



人と動物のつながりを、教員が著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、遺伝子・ゲノム情報データベース利用・解析などから理解する。学生自らが把握した情報について討論、発表を行う。

ヒトと動物の環境科学特論 (必修)



本特論では、これまでにどのような環境問題が発生し、それらに対してどのような対応がなされてきたのかを動物看護学分野と関連づけて教授する。

動物看護教育特論 (必修)



国内外の動物看護教育の歴史及び動物看護教育制度の現状や課題について教授するとともに、動物病院、動物関連産業、動物福祉施設などにおける公衆衛生について教授する。

研究方法論 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。

専門科目 / 特別研究

応用動物看護学 I (選択)

動物看護学領域



解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となり、動物看護学を学ぶ上で極めて重要である。これら基礎知識をさまざまな臨床場面で応用ができるようにする。

応用動物看護学演習 I (選択)

動物看護学領域



動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見を検索、入手し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら考察する。

応用動物看護学 II (選択)

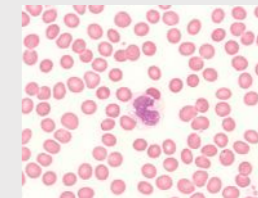
動物看護学領域



愛玩動物の各種疾患の病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験法・看護法についての理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。

応用動物看護学演習 II (選択)

動物看護学領域



演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について教授する。

応用動物人間関係学 I (選択)

動物人間関係学領域



本講義では人間と動物の共生についての歴史的経緯、現在問題となっているヒトと動物の共通感染症、汚染物質、害獣などの問題点とそれらへの取り組みについて教授する。

応用動物人間関係学演習 I (選択)

動物人間関係学領域



本演習では、動物関連公衆衛生分野のテーマについて、学生自らが文献を収集して授業時間中に学生間で討論しあうことにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。

応用動物人間関係学 II (選択)

動物人間関係学領域



動物と人間の関係性について、文化人類学、分子生物学、社会学、動物行動学、動物人間関係学の視点から解説する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人、現代社会の動物と人の関係について研究論文、成書を紹介し、解説する。

応用動物人間関係学演習 II (選択)

動物人間関係学領域



人と動物のつながりについて、長年にわたり保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。

インターンシップ (選択)



ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue(救命救急)の高度動物看護医療体制について実践する。

特別研究 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマを選定し、修士論文を執筆する。